



KEIO SPORTS SDGs

シンポジウム 2023



多分野連携で進める スポーツ・身体活動

2023 2.26 sun.

13:00~17:00(開場12:30)

会場 慶應義塾大学日吉キャンパス 来往舎1F シンポジウムスペース

参加費 無料 定員 200名

※後日、講演動画を配信予定
(申込者への期間限定公開)

より
アクティ
ブ
に
どこでも
だれでも
いつでも

参加申込方法

Peatixでの事前申込
(<https://keiosportssdgs2023symposium.peatix.com/>)



●問い合わせ先 慶應義塾大学 スポーツ医学研究センター
電話:045-566-1090 FAX:045-566-1067 e-mail:keiosportssdgs@gmail.com

主催:慶應義塾大学

担当:スポーツ医学研究センター 大学院健康マネジメント研究科
大学院システムデザイン・マネジメント研究科 体育研究所 SFC研究所 xSDG・ラボ 医学部スポーツ医学総合センター
グローバルリサーチインスティテュート 慶應スポーツSDGsセンター(SU)

後援(予定):厚生労働省 スポーツ庁 公益社団法人日本医師会 神奈川県 横浜市市民局 藤沢市 日本運動疫学会
公益財団法人健康・体力づくり事業財団 NPO法人日本健康運動指導士会 公益財団法人横浜市スポーツ協会
一般社団法人慶應ラグビー倶楽部



慶應義塾は持続可能な開発目標(SDGs)を支援しています。

企画概要

2022年度、日本では健康日本21(第二次)最終評価が終わり、次期計画を策定する重要な時期を迎えている。WHOは2020年に「身体活動・座位行動ガイドライン」を発表、2022年には「Global Status Report on Physical Activity 2022」にて身体活動に関する世界行動計画2018-2030(GAPPA)から4年経過した世界の現状を報告した。本シンポジウムでは、日本と世界の身体活動の現状を共有するとともに、2030年の持続可能な行動目標(SDGs)、更にその先に向けて、慶應義塾内外のステークホルダーと、今後行うべきことを考える機会とする。また、多分野連携の気運を醸成し、より強固なつながり・広がり形成するため、参加者も交えて話題性のある身近なテーマを議論し、多様なステークホルダーとの協働を進めるきっかけとする。

講演

オンライン特別講演

事前
配信

Global Status Report on Physical Activity 2022 and Future Prospects

Associate Professor in Public Health, University of East Anglia; President of the International Society for Physical Activity and Health (ISPAH) Karen Milton



SPORTS x SDGsの現状と課題

政策・メディア研究科 教授 蟹江 憲史



世界と日本の身体活動の状況と今後の展望

スポーツ医学研究センター・健康マネジメント研究科 准教授 小熊 祐子



セッション①

誰でもできるメンタルヘルスのすゝめ

トップアスリートのメンタルヘルスから「誰でもできる」を考える

システムデザイン・マネジメント研究科 特任准教授 田中ウルヴェ 京

アスリートのメンタルヘルスケア ~今、求められるものとは?

国立精神・神経医療研究センター 研究員 小塩 靖崇



〈モデレーター〉

スポーツ医学研究センター・健康マネジメント研究科 教授 石田 浩之
システムデザイン・マネジメント研究科 教授 神武 直彦

セッション②

健康経営と社会実装

健康経営とSPORTS SDGs

株式会社ルネサンス 健康経営企画部 部長 樋口 毅



研究から社会実装へ -エビデンス・プラクティス- ギャップへの挑戦-

公益財団法人 明治安田厚生事業団 体力医学研究所・上席研究員 甲斐 裕子



〈モデレーター〉

日本体育大学 スポーツマネジメント学部 スポーツライフマネジメント学科 准教授 齋藤 義信
スポーツ医学研究センター・健康マネジメント研究科 准教授 小熊 祐子

総合討議